

# 令和5年度自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立郡上特別支援学校

学校番号 112

## 自己評価

学校教育目標等
(1) 校訓 あかるく なかよく たくましく (2) 学校教育目標 一人一人の可能性を最大限に伸ばし、「自己肯定感」「豊かな心」「健やかな体」を育て、夢や目標の実現に向けて生き生きと活動する児童生徒を育成する。 ① 夢や目標の実現に向け、様々な活動に意欲的に取り組むことができる児童生徒 ② 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会の活動に参加できる児童生徒 ③ 健康の増進と体力の向上に努め、生き生きと活動できる児童生徒

### ※記入凡例

＜成果と課題＞ ◎：重点事項 ○：成果 ●：課題

＜評価＞ A：達成できた B：概ね達成できた C：やや不十分であった D：不十分であった

領域	重点項目	具体的取組及び成果と課題	評価
学校経営 組織運営 各部重点	◎児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリア発達に基づいた教育の推進。 ◎地域と連携し、地域と共にある学校づくりの推進 ◎児童生徒の命を守るための教育の推進と危機管理体制の構築。 ◎全教職員が、生き生きとやりがいをもって働ける職場。 ◎誰もが働きやすい職場 ◎業務の適正化・効率化など働き方改革への意識の向上。 ◎小学部 仲間と共に活動し、自分の良さを知り自信をもって学習や生活に取り組める児童を育てる。 ◎中学部 だれとでも互いの良さを認め合い、目標に向かって協力して粘り強く最後までやりきる生徒を育てる。 ◎高等部 一人一人が夢や希望をもって学校生活を送り自己実現に向けて自信と豊かな心を育みながら、地域社会の一員として自立できる生徒を育てる。	○研修主事を中心に校内研修を推進し、児童生徒の発話や行動から授業改善を考える機運が高まり、平素から職員間で対話が行われた。 ○地域住民、地元企業や行政とのつながりを大切にして、各行事において積極的に地域と連携できた。 ○児童生徒が自分で身を守ることができるように、命を守る訓練、情報モラル教育、地域との防災活動を実施した。 ○働きやすい職場づくりを目指した研修で意見交換を行い、職場における職場環境づくりのポイントについて職員一同で考えた。 ○校長面談やハラスメント調査等で教職員の声を聞き取り、健全な職場環境を保った。 ○前例を見直し、業務の適正化と効率化に努めた。 ○児童同士のやり取りを根気よく促していくことで、徐々に自分から仲間言葉や身振りで関わっていく姿、仲間自分の思いを伝えてやりとりしたりする姿が増えた。(小学部) ○仲間の意見に耳を傾け、協力して生徒主体で最後までやりきる姿が多く見られた。また、地域の方々と積極的にかわるることによって、ふるさとの良さに気付き、愛着をもつことができた。(中学部) ○食育を中心に、地域と連携した体験的な学習を積極的に実施することができた。食文化を含め、ふるさと郡上について学びを深めることができた。(高等部) ○学年の枠を超えた学習グループを編成して指導を行い、仲間と関わりながら考えや思いを伝え合う姿が増えた。(高等部)	A
教科指導	◎体験的な学習を仕組んだり、ICT機器を活用したりして、児童生徒の主体性や生活に生かせる実践的な力を身に付ける学習の充実を図る。 ◎新たな時代に必要な3つの資質・能力を育成するために、児童生徒の発達段階や学習状況を踏まえ、教育的ニーズに応じた指導のねらいと評価の観点を明確にし、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・児童生徒の物事の見方、考え方を豊かにし、学びに向かう力を育成するために、対話や関わりを大切にした指導の充実を図る。 ・外国語活動(小学部)、主権者教育、消費者教育等の現代的課題に応じた学習の充実を図る	○地域交流、学校間交流、校外学習等の校外で活動する機会が増え、体験的に生きる力を育む学習活動を仕組むことができた。 ○職員間で児童生徒の内面について話をする機会が増え、対話や関わりを大切にした指導が充実してきた。 ○育成すべき資質・能力の3つの柱のバランスを意識した「指導と評価の年間計画」を立案し、計画にそって学習指導を進めることができた。 ●評価の観点についての理解が十分でない。次年度から運用される校務支援システムを活用し、評価の観点について理解を高めていく必要がある。	B

キャリア教育	<p>◎キャリア・パスポートを活用し、学校生活全般において教師が児童生徒と対話的に関わりながら自己肯定感や自信を育成する。</p> <p>・児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリアの発達段階に合わせた指導を行う。</p>	<p>○児童生徒の内面を捉え、キャリア発達を促す支援を職員が意識した結果、児童生徒の興味関心を引き出した学習に繋がり、授業を通して自己肯定感を高めることができた。</p> <p>●部間の連携や児童生徒の願いを大切にしたいキャリアデザインを構築し、キャリア・パスポートの充実を図る。</p>	B
ふるさと教育	<p>◎岐阜県や郡上市の魅力を理解し、地域の人と触れ合いながら地域に愛着をもち、貢献できる児童生徒を育成する。</p>	<p>○積極的に地域交流を実施することができた。来年度も地域の人と関わる機会を設け、郡上市の魅力を理解できる学習を計画していく。</p>	A
総合的な学習（探究）の時間	<p>◎自分の生活、進路、地域に関する学習等に継続して取り組み、児童生徒のよりよく課題を解決する力や態度を育成する。</p>	<p>○総合的な探究の時間だけでなく、生活単元学習と関連付けながら学習を深めることができた。</p> <p>●行事の実施時期が集中することがあった。より学習を深めるため、ねらいを整理し、時期については他の行事と併せて調整していく。</p>	A
自立活動	<p>◎児童生徒が自己理解を深め、自分の力を最大限に発揮しようとする主体的な態度を育成する。</p> <p>・各教科等と関連付け、教育活動全体を通して自立活動の効果的な指導を行う。</p>	<p>○外部講師（作業療法士・言語聴覚士）を招聘し、対象児童生徒一人一人の動作や課題について指導助言をいただき、指導に活かすことができた。</p> <p>●個々に応じた支援目標を明確にした上で、各教科とさらに関連付けて適切な支援を行うことが必要である。</p>	B
道徳教育	<p>◎経験の拡充を図り、豊かな道徳的心情を育て、道徳的判断力、実践意欲と態度を育成する。</p> <p>・仲間や地域の人々との触れ合いを通して、命を大切にできる心、相手を思いやる心、感謝する心を育て、温かい人間関係を醸成する。</p> <p>・体験的な活動を通して、自己を見つめる力や社会生活のルールを身に付け、強く明るく生きようとする意欲と態度を育成する。</p>	<p>○全校交流会を行い、校舎間の交流の場を設けることができた。</p> <p>○人権七夕や生徒会活動等を中心に、仲間の良い所を見付ける取組を実施し、思いやりや他者理解の心を育むことができた。</p>	A
特別活動	<p>◎生徒会活動、委員会活動等において間とともに協力して活動を展開する中で、より良い学校生活を築き、自発的、実践的な態度を育成する。</p>	<p>○学校祭の係活動や委員会・生徒会活動において目的を達成するために、仲間と話し合い、協働的に活動する中で、自主性や連帯感を育むことができた。</p>	A
ICT活用推進	<p>◎ICTを活用した「学びのスタンダード」の効果的な授業実践、活用実践を積み上げていく。</p> <p>・業務の効率化や効果的な学習指導のために、活用事例を職員間で共有することで、ICT機器活用のリテラシーを高めていく。</p>	<p>○タブレット端末を活用した授業実践を行うことで、授業準備の効率化につながった。</p> <p>○ICT機器の使用方法や注意点について、職員からの問い合わせが多い内容をデータで共有し、誰もが活用できる状況整備に努めた。</p> <p>●ICT機器を活用した効果的な授業実践を共有する機会を設ける必要がある。</p>	B
指導力向上	<p>◎児童生徒のキャリア発達を目指し、児童生徒の内面を丁寧に捉え、職員間で深め合うための研究を推進する。</p> <p>◎学校や個々の課題解決のために、対話を重視し、主体的に職員間で学び合う研修・研究を実施する。</p>	<p>○外部講師の協力を得ながら、公開授業をもとに児童生徒の内面を捉え、職員間で対話する取組を行い、児童生徒の内面の捉えの広がりや習慣化につながった。</p> <p>○普段の業務において児童生徒の様子を職員間で対話する機会が増えた。</p> <p>○自己課題を明確にした研究授業や興味関心に基づく主体的な研修受講を推進できた。</p> <p>●校内職員のニーズに柔軟に対応できる主体的な研修機会を整えていく。</p>	B
健康教育	<p>◎児童生徒が自らの健康、心身の成長発達に関して適切に理解し、行動できる力を育成する。</p> <p>◎生涯にわたって健康で健全な食生活を実現できる知識と習慣を身に付けられるよう、家庭と連携して取り組む。</p> <p>・体育、健康に関する指導をとおして、基礎体力の向上を目指し、運動に親しむ基礎を培う。</p> <p>・感染症を含めた健康課題について正しく理解し、予防に必要な知識と習慣を身に付けられるよう、指導の充実を図る。</p>	<p>○高等部では、外部講師による薬物乱用防止講座を実施し、身近な健康課題として学習した。小学部・中学部では、季節の行事や調理等の活動と関連付けて性教育や健康管理に関する学習に取り組み、健康維持に必要な基本技能を身に付け、自分の体の成長に興味をもつことができた。</p> <p>○食に関する指導の全体計画及び年間計画を作成し、栄養教諭を中心に地域や家庭と連携した食育を実施した。</p> <p>○学校周辺を歩く活動や部活動、体育に関わる校外学習を実施し、継続的に運動に取り組む機会を設定して、基礎体力の向上を図った。</p> <p>●性に関する指導について、実態に応じた指導内容を検討し各教科等の年間計画に位置付け、計画的に取り組む。</p>	B

生徒指導	<p>◎児童生徒の社会自立に向け、自らの可能性を最大限に発揮できる資質や能力の向上を目指す指導を行う。</p> <p>◎自信をもって主体的に活動参加できる人材の育成と、自他の生命を尊重することができる豊かな心の育成を目指す。</p> <p>◎問題行動や諸課題の解決に向け、保護者や関係諸機関等との連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ、不登校、性に関する問題等について未然防止と早期発見・早期対応に努める。</li> </ul> <p>◎「自分の命は自分で守る」ことのできる児童生徒の危機管理能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルに基づいた防災教育や管理を計画的に進め、自らの命を守る実践力を育成する。</li> </ul>	<p>○外部講師による情報モラル学習を行い、規範意識を高めることができた。また、情報モラルアンケートを実施し、実態把握と個に応じた的確な指導を行うことができた。</p> <p>○部活動の各種大会に生徒が積極的に参加し、参加大会数が増加した。</p> <p>○連絡帳、各種アンケート、ホームページ等を活用し、教職員、家庭、外部委員と情報共有を行い、発生した事案について組織内で連携して迅速な対応ができた。</p> <p>●定期的にいじめの定義を教職員に啓発し、児童生徒の小さな変化を察知できるよう、意識の涵養に努める。</p> <p>○危機管理マニュアルに基づき、計画的に各種訓練を実施し、様々な災害に応じた行動を意識づけることができた。また、地域と連携して体験活動を含む訓練や防災教育を実施した。</p>	B
進路指導	<p>◎「地域でたくましく働き続ける人」「地域の担い手となる人材」の育成をめざし、夢や自信をもち主体的に進路選択する力、社会のニーズに対応する力、変化する社会を生き抜く力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部段階から主体性、実践力を育む進路指導、キャリア教育の充実を図る。</li> <li>・早期からのキャリア構築、進路意識を高めるための情報提供を行う。</li> <li>・個別の移行支援計画の活用と学校から社会へのスムーズなキャリアステージの移行を行う。</li> <li>・就労先、実習先の確保に向けた、就労支援ネットワークの充実を図る。</li> </ul>	<p>○キャリア・パスポートを位置付け、小学部段階からキャリア教育に取り組むことができた。</p> <p>○中学部、高等部では地域の協力を得て、進路に関する行事を計画通りに進めることができた。実習や事業所見学、研修会等を通して働く力を育むことができた。</p> <p>○進路通信を月1回程度発行し、定期的にホームページの更新を行って情報提供に努めた。</p> <p>○企業向けの進路研修会を通じて、企業の方々に当校の取組や生徒の様子を紹介した。</p> <p>●進路通信、ホームページを活用した情報発信を継続し、保護者への情報提供がさらに充実するよう努力していく。</p> <p>●生徒の希望する進路実現のために、さらなる職場開拓や啓発活動を推進する。</p>	B
地域連携	<p>◎学校祭や米作り、清掃活動等の地域と学校がともに参加する行事を通して、互いに連携や協働をしながら地域に開かれた学校づくりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間、居住地校との交流及び共同学習、地域での活動を通して、社会性や豊かな人間性を育成する。</li> </ul>	<p>○大和校舎では米作り、那比校舎では、Good job喫茶や作業製品販売を中心に、地域の方との交流を行った。学校祭を両校舎で開催し、PTAでの企画を再開し、地域の方や同窓生も来校して参加した。中学部では、地域の方を招いて夏祭りを実施し、生徒が考えたゲームや郡上踊りを通して交流できた。</p> <p>○学校間交流や共同学習については、直接交流を行うことができ、地域の同年代の仲間と顔を合わせて活動することができた。写真を見て楽しかったことを伝えたり、再会を楽しみにしたりする姿が見られた。</p> <p>○居住地校交流では交流校に訪問することができ、交流回数も昨年に比べて増加した。児童生徒の実態に合わせてオンラインや直接訪問など交流方法を担当教員が考えながら対応した。</p> <p>●Gujo Smileサポーターズの方には、授業の年間計画に合わせた講師の依頼やワークショップなどへの協力要請ができた。募集は継続し、学校の様子や行事の情報が共有しやすいようにメールアドレスの登録をお願いしていく。</p>	A

### 学校関係者評価 (令和6年2月6日学校運営協議会実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと郡上を大切にされた教育活動がなされている。今後もふるさと教育を活発に続けてほしい。</li> <li>・現在行っている学校間交流や居住地校交流を通して同年代と交流する活動を大切にしつつ、地域住民との活動も引き続き活発に実施してほしい。</li> <li>・地域住民ボランティアの再登録と新規募集を行い、地域住民を活用して地域と連携し、体験的な活動を通して児童生徒に学ばせてほしい。</li> <li>・働き方改革は超過勤務時間数を減らすことだけを目的とする改革ではなく、業務内容の見直しや効率化を図るためのシステム構築についても取り組まれていて良い。</li> </ul>
---